

神代高等学校 令和6年度 教科芸術科目書道Ⅰ 年間授業計画

教 科： 芸術科 目： 書道Ⅰ 単位数： 2単位
対象学年組： 第4学年A組）
教科担当者：（A組： 蛭川乃里子 ）（〇組： ）（〇組： ）（〇組： ）（〇組： ）（〇組： ）
書Ⅰ 光村図書

	指導内容	科目書道Ⅰの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	用具・用材 姿勢・執筆	書道の学習に必要な用具・用材について理解し丁寧に扱う態度を養う。筆・硯にさまざまな種類があり実際に触れてその性能を想像する。手入れの方法と大切さを理解する。執筆、姿勢を知る。	用具の準備・管理の状況や様々な用具に触れ試しその感触を表現する。ワークシート記入、授業への取り組みの姿勢や態度学習の記録。	4
	書の変遷と時代背景 書	漢字の成立と書の変遷を時代背景とともに理解する。五體字類を使い漢字の書体を調べ書体への関心を促す。	授業への取り組みの姿勢や態度学習の記録。	4

	指導内容	科目書道Ⅰの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	基本点画	小筆の持ち方、動かし方が硬筆とほぼ同じであることから、履歴書の書き方を学び記入してみる。楷書の用筆、結構法、基本点画名称を知る	用具の準備・管理の状況や様々な用具に触れ試しその感触を表現する。ワークシート記入、授業への取り組みの姿勢や態度学習の記録。	4
	楷書の成立と唐の四大家の代表作品の比較 作品鑑賞	楷書にふさわしい用筆法を理解し、基本点画を名称とともに書法を習得する。これまでの机上学習と表現の実技学習をもとに用筆法・結構法を分類し印象の違いを手掛かりに鑑賞法方法を理解する。書の古典を知り学習教材としての特質と意義を理解する。	文字の外形、結構法運筆の遅速等が適格にとらえられたか作品の成果と試書から清書までの過程。	4
	楷書の成立と唐の四大家の代表作品の比較 作品鑑賞	楷書の成立を理解し唐の四大家の書風をはじめさまざまな書風の作品があることについてを知る。「孔子廟堂碑」と「九成宮醴泉銘」の特徴と書法を理解し、結構法や線の質のちがいから受ける印象の違いを知る。	文字の外形、結構法運筆の遅速等が適格にとらえられたか作品の成果と試書から清書までの過程。	2
	楷書の成立と唐の四大家の代表作品の比較 作品鑑賞	楷書の成立を理解し唐の四大家の書風をはじめさまざまな書風の作品があることについてを知る。「雁塔聖教序」と「顔氏家廟碑」の特徴と書法を理解し、結構法や線の質のちがいから受ける印象の違いを知る。	文字の外形、結構法運筆の遅速等が適格にとらえられたか作品の成果と試書から清書までの過程。	4
	表現を広げよう	楷書の成立を理解し唐の四大家の書風をはじめさまざまな書風の作品があることについてを知る。「牛廐造像記」と「鄭義下碑」の特徴と書法を理解し、結構法や線の質のちがいから受ける印象の違いを知り、用筆や運筆の違いを理解する。	書風の違いを言語表現する。	2

	指導内容	科目書道 I の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	表現を広げよう	楷書の成立を理解し唐の四大家の書風をはじめさまざまな書風の作品があることについてを知る。「牛廐造像記」と「鄭義下碑」の特徴と書法を理解し、結構法や線の質のちがいから受ける印象の違いを知り、用筆や運筆の違いを理解する。	文字の外形、結構法運筆の遅速等が適格にとらえられたか作品の成果と試書から清書までの過程。	4
	鑑賞を深めよう	これまでに学習した作品の用筆、字形の特徴とそれから受ける印象(イメージ)を言葉で表現して具体的に分析する。	適切な言語表現ができるか。	4
	表現を広げよう 創作一字書	各自選択した漢字一字の意味からイメージを広げ、そのイメージを文字の書き方の工夫で表現する。	試書から清書までの過程での工夫、余白がうまくいかせたか。	6

指導内容		科目書道 I の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	漢字仮名交じりの書	これまでの学習で習得した用筆法を使い、自ら選んだ、漢字仮名交じり文を使い自己表現する。	試し書きから清書までの過程での工夫、余白がうまくいかせたか。	4

		指導内容	科目書道 I の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月			蘭亭序の鑑賞資料の作成し、同一文字表現の違いから多様な表現を知り、書聖と呼ばれる王羲之への理解を深める。		8
			「蘭亭序」を参考に行書の主な特徴を知り、行書の基本書法を学習する。 1) この作品から二字語句を集字して作品を書く。 2) 四字句部分を臨書し、画仙紙四分の一に一行書きの臨書作品を完成させる。	文字の外形、結構法運筆の遅速等が適格にとらえられたか作品の成果と試書から清書までの過程。	

	指導内容	科目書道 I の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	「風信帖」と空海について理解することができる。鑑賞と臨書を通して、字形、線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得することができる。三筆と三蹟について果たした役割を理解する。	三筆の書風から王羲之の書法の影響を知り、行、草の調和や軽妙な箇所がなぜ生じたのかを考える。 草書部分から四字句を抜粋して画仙紙四分の一に臨書して、文字から文字への流れや、呼吸を学ぶ。	文字の外形、結構法運筆の遅速、流れ等が適格にとらえられたか作品の成果と試書から清書までの過程。	8

	指導内容	科目書道 I の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	仮名の成立、仮名の基本的な筆使いをいろは歌で学ぶ。	仮名の種類と平仮名の成立を知る。小筆の持ち方と硬筆の持ち方がほぼ同じであることから、日頃使い慣れた硬筆でいろは歌から、文字のリズムが漢字と違うことを、体得する。硬筆学習の仮名文字のリズムにも活かせるようにする。	いろは歌硬筆プリント、履歴書の記入、仮名の試書から清書までの成果。	6
	漢字仮名交じりの書 心に響く言葉を書く 言葉から連想するイメージの違いや表現の工夫により多様な書表現が生まれることを理解し、創作への見通しを持つことができる	端正な字形や平明な線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。変体仮名の字源と読みを確認する。古筆の用筆・運筆を理解し、字形からリズムを活かした漢字仮名交じり文を創作する。	試書から清書までの過程での工夫、余白がうまくいかせたか。	4

	指導内容	科目書道 I の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	漢字仮名交じりの書 心に響く言葉を書く 言葉から連想するイメージの違いや 表現の工夫により多様な書表現が生まれる ことを理解し、創作への見通しを持つこと ができる。	端正な字形や平明な線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。変体仮名の字源 と読みを確認する。古筆の用筆・運筆を理解し、字形からリズムを習得する。	構想、工夫の過程と作品の成 果と自己評価。	6

	指導内容	科目書道 I の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	漢字仮名交じりの書 心に響く言葉を書く 言葉から連想するイメージの違いや 表現の工夫により多様な書表現が生まれる ことを理解し、創作への見通しを持つこと ができる。	端正な字形や平明な線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。変体仮名の字源 と読みを確認する。古筆の用筆・運筆を理解し、字形からリズムを活かした漢 字仮名交じり文を創作する。	構想、工夫の過程と作品の成 果と自己評価。	4